

# 決 算 概 要

— 令和4年度 —

学校法人精華学園

## ■ はじめに

学校法人精華学園の令和4年度決算が、さる令和5年5月29日開催の学園評議員会ならびに理事会に於いて承認されました。ここに本学園の資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表の概要を報告させていただきます。

## ■ 収支の概要

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入と支出の内容および支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。令和4年度の資金収支計算書は下記のとおりで、収入の主な科目の内、学生生徒納付金収入は11億1千8百万円、補助金収入は5億5千5百万円となりました。支出につきましては、人件費10億6千5百万円、教育研究経費4億7千3百万円、管理経費は1億7千4百万円で、翌年度への繰越金は31億2千2百万円となりました。

事業活動収支計算書は、当該年度の収支の状況を経常的な事業活動に係る経常収支と、一時的に発生する臨時的な特別収支に区分し、それらの収支状況を把握できるようにしたものです。令和4年度の教育活動収入は17億6千3百万円、教育活動支出は18億9千7百万円、教育活動収入から教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額は△1億3千3百万円となりました。これに教育活動外収支差額△1百万円を加算した経常収支差額は△1億3千4百万円となりました。そして、この経常収支差額に、特別収支差額△7百万円を加算した基本金組入前当年度収支差額は、△1億4千2百万円となりました。これから施設設備等の取得（第1号基本金）や将来施設等を取得するための資金（第2号基本金）等に充てた基本金組入額4千4百万円を差し引いた当年度収支差額が1億8千6百万円の支出超過となりました。これに前年度繰越収支差額△1億6千4百万円と、基本金取り崩し額1千4百万円を加算した翌年度繰越収支差額は△3億3千6百万円となりました。

貸借対照表は、年度末における資産、負債および正味資産（基本金、繰越収支差額）の状態、つまり財政状態を明らかにしたものです。令和4年度末の財政状態は、資産は前年度比1億9千9百万円の減で93億3千4百万円となっており、これに対して、負債は前年度比5千7百万円の減で13億1千4百万円となりました。その結果、資産総額から負債総額を差し引いた正味資産は、前年度比1億4千2百万円減の80億1千9百万円となりました。

## ■ おわりに

本学園の健全な運営を維持していくためには、教育環境の維持向上とともに施設設備等の充実に継続的に必要となります。本学園でもICTを活用した教育指導に積極的に取り組んでおり、令和4年度も、短大・高校ともにWi-Fi環境の拡充を行い、高校では一人一台端末の導入を進めました。その他、短大においては、吹奏楽部の楽器増設等を行い、高校においては、立花寺体育館の玄関庇の改修、別館の楽器倉庫の改修等を行っております。これからも教育環境や設備の充実に努めるとともに、財務面でも健全で効率的な運用を心がけて参ります。今後とも引き続き関係各位の皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

資金収支計算書

令和 4年 4月 1日 から  
令和 5年 3月31日 まで

<総括表>

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	( 1,116,755,000 )	( 1,118,523,100 )	( △ 1,768,100 )
手数料収入	( 18,710,000 )	( 15,883,778 )	( 2,826,222 )
寄付金収入	( 1,910,000 )	( 3,104,410 )	( △ 1,194,410 )
補助金収入	( 554,900,000 )	( 555,151,267 )	( △ 251,267 )
国庫補助金収入	124,800,000	127,276,600	△ 2,476,600
地方公共団体補助金収入	430,100,000	427,874,667	2,225,333
資産売却収入	( 0 )	( 0 )	( 0 )
付随事業・収益事業収入	( 4,000,000 )	( 2,712,690 )	( 1,287,310 )
受取利息・配当金収入	( 1,350,000 )	( 1,300,363 )	( 49,637 )
雑収入	( 55,100,000 )	( 68,590,023 )	( △ 13,490,023 )
借入金等収入	( 0 )	( 0 )	( 0 )
前受金収入	( 189,840,000 )	( 149,028,200 )	( 40,811,800 )
その他の収入	( 51,500,000 )	( 78,258,076 )	( △ 26,758,076 )
資金収入調整勘定	( △ 243,972,000 )	( △ 209,431,379 )	( △ 34,540,621 )
前年度繰越支払資金	( 3,252,275,208 )	( 3,238,224,060 )	
収入の部合計	5,002,368,208	5,021,344,588	△ 18,976,380

(単位 円)

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	( 1,069,300,000 )	( 1,065,757,258 )	( 3,542,742 )
教育研究経費支出	( 481,350,000 )	( 473,051,697 )	( 8,298,303 )
管理経費支出	( 180,280,000 )	( 174,097,383 )	( 6,182,617 )
借入金等利息支出	( 2,031,000 )	( 2,030,992 )	( 8 )
借入金等返済支出	( 50,000,000 )	( 50,000,000 )	( 0 )
施設関係支出	( 33,500,000 )	( 2,150,500 )	( 31,349,500 )
設備関係支出	( 52,300,000 )	( 46,050,700 )	( 6,249,300 )
資産運用支出	( 40,300,000 )	( 40,897,877 )	( △ 597,877 )
その他の支出	( 52,000,000 )	( 62,574,135 )	( △ 10,574,135 )
〔予備費〕	4,000,000		4,000,000
資金支出調整勘定	( △ 18,120,288 )	( △ 17,294,262 )	( △ 826,026 )
翌年度繰越支払資金	( 3,055,427,496 )	( 3,122,028,308 )	( △ 66,600,812 )
支出の部合計	5,002,368,208	5,021,344,588	△ 18,976,380

## 活動区分資金収支計算書

令和 4年 4月 1日 から  
令和 5年 3月31日 まで

<総括表>

(単位 円)

		科 目	金額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	1,118,523,100
		手数料収入	15,883,778
		経常費等補助金収入	551,042,267
		教育活動資金収入計	1,759,764,968
	支出	人件費支出	1,065,757,258
		教育研究経費支出	473,051,697
		差引	47,509,176
	調整勘定等	△ 49,475,116	
		科 目	金額
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備補助金収入	4,109,000
		施設整備等活動資金収入計	4,200,300
	支出	施設関係支出	2,150,500
		設備関係支出	46,050,700
		施設整備等活動資金支出計	88,201,200
		差引	△ 84,000,900
		調整勘定等	643,000
	施設整備等活動資金収支差額	△ 83,357,900	
		科 目	金額
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	0
		小計	54,347,140
		受取利息・配当金収入	1,300,363
		その他の活動資金収入計	55,647,503
	支出	借入金等返済支出	50,000,000
		小計	83,837,877
		借入金等利息支出	2,030,992
	調整勘定等	0	
	支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	△ 116,195,752	
	前年度繰越支払資金	3,238,224,060	
	翌年度繰越支払資金	3,122,028,308	

## 事業活動収支計算書

令和 4年 4月 1日 から  
令和 5年 3月31日 まで

<総括表>

(単位 円)

		科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	( 1,116,755,000 )	( 1,118,523,100 )	( △ 1,768,100 )
		手数料	( 18,710,000 )	( 15,883,778 )	( 2,826,222 )
		寄付金	( 1,910,000 )	( 3,746,145 )	( △ 1,836,145 )
		経常費等補助金	( 552,100,000 )	( 551,042,267 )	( 1,057,733 )
		国庫補助金	124,000,000	124,683,600	△ 683,600
		地方公共団体補助金	428,100,000	426,358,667	1,741,333
		付随事業収入	( 4,000,000 )	( 2,712,690 )	( 1,287,310 )
		雑収入	( 55,100,000 )	( 71,525,013 )	( △ 16,425,013 )
		教育活動収入計	1,748,575,000	1,763,432,993	△ 14,857,993
教育活動支出の部	事業活動支出の部	人件費	( 1,071,300,000 )	( 1,064,672,699 )	( 6,627,301 )
		教育研究経費	( 635,850,000 )	( 631,486,634 )	( 4,363,366 )
		管理経費	( 207,280,000 )	( 200,997,689 )	( 6,282,311 )
		徴収不能額等	( 0 )	( 0 )	( 0 )
		教育活動支出計	1,914,430,000	1,897,157,022	17,272,978
		教育活動収支差額	△ 165,855,000	△ 133,724,029	△ 32,130,971
教育活動外収入の部	事業活動収入の部	受取利息・配当金	( 1,350,000 )	( 1,300,363 )	( 49,637 )
		その他の教育活動外収入	( 0 )	( 0 )	( 0 )
		教育活動外収入計	1,350,000	1,300,363	49,637
		教育活動外支出の部	事業活動支出の部	借入金等利息	( 2,031,000 )
その他の教育活動外支出	( 0 )	( 0 )		( 0 )	
教育活動外支出計	2,031,000	2,030,992		8	
教育活動外収支差額	△ 681,000	△ 730,629	49,629		
経常収支差額	△ 166,536,000	△ 134,454,658	△ 32,081,342		
特別収入の部	事業活動収入の部	資産売却差額	( 0 )	( 0 )	( 0 )
		その他の特別収入	( 5,100,000 )	( 7,394,480 )	( △ 2,294,480 )
		特別収入計	5,100,000	7,394,480	△ 2,294,480
	事業活動支出の部	資産処分差額	( 0 )	( 11,849,670 )	( △ 11,849,670 )
		その他の特別支出	( 0 )	( 3,141,050 )	( △ 3,141,050 )
		特別支出計	0	14,990,720	△ 14,990,720
特別収支差額	5,100,000	△ 7,596,240	12,696,240		

(単位 円)

科 目	予 算	決 算	差 異
〔予備費〕	4,000,000		4,000,000
基本金組入前当年度収支差額	△ 165,436,000	△ 142,050,898	△ 23,385,102
基本金組入額合計	△ 109,271,138	△ 44,575,800	△ 64,695,338
当年度収支差額	△ 274,707,138	△ 186,626,698	△ 88,080,440
前年度繰越収支差額	496,574,065	△ 164,154,991	660,729,056
基本金取崩額	0	14,102,703	△ 14,102,703
翌年度繰越収支差額	221,866,927	△ 336,678,986	558,545,913

(参考)

事業活動収入計	1,755,025,000	1,772,127,836	△ 17,102,836
事業活動支出計	1,920,461,000	1,914,178,734	6,282,266

貸借対照表

令和 5年 3月31日

<総括表>

(単位 円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	( 6,129,228,607 )	( 6,236,719,923 )	( △ 107,491,316 )
有形固定資産	< 5,859,925,689 >	< 6,007,967,950 >	< △ 148,042,261 >
特定資産	< 220,840,155 >	< 180,233,434 >	< 40,606,721 >
その他の固定資産	< 48,462,763 >	< 48,518,539 >	< △ 55,776 >
流動資産	( 3,204,958,651 )	( 3,297,089,403 )	( △ 92,130,752 )
資産の部合計	9,334,187,258	9,533,809,326	△ 199,622,068
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	( 988,980,189 )	( 1,042,999,738 )	( △ 54,019,549 )
流動負債	( 325,890,463 )	( 329,442,084 )	( △ 3,551,621 )
負債の部合計	1,314,870,652	1,372,441,822	△ 57,571,170
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	( 8,355,995,592 )	( 8,325,522,495 )	( 30,473,097 )
第1号基本金	8,011,224,393	8,020,751,296	△ 9,526,903
第2号基本金	200,000,000	160,000,000	40,000,000
第4号基本金	144,771,199	144,771,199	0
繰越収支差額	( △ 336,678,986 )	( △ 164,154,991 )	( △ 172,523,995 )
純資産の部合計	8,019,316,606	8,161,367,504	△ 142,050,898
負債及び純資産の部合計	9,334,187,258	9,533,809,326	△ 199,622,068

計算書の科目の説明

資金収支計算書

収入の部

科目	科目の説明
学生生徒等納付金収入	授業料 入学金 実験実習料 施設設備資金収入等が含まれます。
手数料収入	入学検定料 証明手数料等です。
寄付金収入	学校法人への寄付金による収入です。
補助金収入	国庫補助金 地方公共団体補助金です。
資産売却収入	有価証券の満期による収入です。
付随事業・収益事業収入	公開講座収入です。
受取利息・配当金収入	受取利息 配当金です。
雑収入	施設設備利用料収入 私立大学退職金財団等交付金収入等です。
前受金収入	当年度に受け入れた翌年度の学生生徒等納付金収入です。
その他の収入	前期末未収入金収入等です。
資金収入調整勘定	期末に未収のもの(期末未収入金)や前期までに既に受け入れているもの(前期末前受金)を差し引くことで資金収入を調整しています。

支出の部

人件費支出	教職員の給与 退職金 役員報酬が含まれます。
教育研究経費支出	教育研究に係わる消耗品 光熱水費 旅費交通費他です。
管理経費支出	管理に係わる消耗品 光熱水費 旅費交通費他です。
借入金等利息支出	借入金の利息です。
借入金等返済支出	借入金の返済額です。
施設関係支出	土地 建物 構築物を取得するための支出です。
設備関係支出	教育研究用機器備品 管理用機器備品 図書を購入するための支出です。
資産運用支出	有価証券の購入資金および校地校舎取得の為の積立金等です。
その他の支出	前期末未払金支払支出等です。
資金支出調整勘定	期末未払いのもの(期末未払金) 前年度までに支払っているもの(前期末前払金)を差し引くことで資金支出を調整しています。

活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は 教育活動による資金収支 施設整備等活動による資金収支 その他の活動による資金収支にわかれており、それぞれに収入 支出 収支差額を計上しています。

教育活動資金収支差額	教育活動資金収入から、教育活動資金支出を差し引き、調整勘定等で調整した金額です。令和4年度は、△1,965,940円です。
施設整備等活動資金収支差額	施設整備等活動資金収入から、施設整備活動資金支出を差し引き、調整勘定等で調整した金額です。令和4年度は、△83,357,900円です。
その他の活動資金収支差額	その他の活動資金収入から、その他の活動資金支出を差し引き、調整勘定等で調整した金額です。令和4年度は、△30,871,912円です。
支払資金の増減額	上記3つの活動資金収支差額の合計です。 翌年度繰越支払資金から前年度繰越資金を差し引いたその年度の増減額です。

事業活動収支計算書

事業活動収支は 教育活動収支 教育活動外収支 特別収支に分かれており、それぞれに収入 支出 収支差額を計上しています。

科目	科目の説明
寄付金	事業活動収入には現物による寄付も含まれます。
人件費	教職員の給与 役員報酬の他に退職給与引当金組入額も含まれます。
教育研究経費	資金収支の教育研究経費の他に教育研究の減価償却額も含まれます。
管理経費	資金収支の管理経費の他に管理の減価償却額も含まれます。
基本金組入額合計	当年度の第1号基本金 第2号基本金 第4号基本金への要組入額と借入金返済額と前期の未払金の組入額から、今期の除却額と未払金を引いた金額をマイナス表示しています。
翌年度繰越収支差額	前年度繰越収支差額に当年度収支差額と基本金取崩額を加えた額です。

以外の科目は資金収支計算書に同じのため記載省略

貸借対照表

資産の部

科目	科目の説明
固定資産	有形固定資産+特定資産+その他の固定資産です。
有形固定資産	土地 建物 構築物 教育研究用機器備品 管理用機器備品 図書 車両 建設仮勘定です。
特定資産	退職給与引当 奨学金引当 第2号基本金引当資金です。
その他の固定資産	投資有価証券等です。
流動資産	現金預金 退職資金交付額の未収入金等です。

負債の部

固定負債	長期借入金 退職給与引当金です。
流動負債	短期借入金 未払金 前受金等です。

純資産の部

第1号基本金	施設設備当初取得額(購入額)の合計です。
第2号基本金	将来の校地校舎取得の為の積立金です。
第4号基本金	恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣の定める額です。
翌年度繰越収支差額	プラスは収入超過を マイナスは支出超過を表します。
純資産の部合計	基本金と繰越収支差額の合計です。 また 資産の部合計から負債の部合計を差し引いた額が純資産の部合計となります。



## 学校法人の会計について（解説）

学校法人の目的は、学校を運営し教育・研究を行うことにあり、一般企業のように営利を目的とはしていません。

教育活動は社会へ輩出する人材の育成を目的とし、研究活動はその成果を学内及び、社会に伝えることを目的としています。

企業会計は、収益と費用からその経営状況を知ることになりますが、学校会計は、計算書類によって財務の面から、教育研究活動が円滑に行われているか否かを知ることにあります。

教育研究活動を行うためには、教職員の配置や、施設・設備の整備が必要です。

教育研究環境を充実・発展させるための運用資金や運用財産を管理しながら、財務状況を正しく掴んで経営する必要があります。

教育研究は事業計画に沿って予算を立てる考えで行っていくので、予算書は大切な書類となります。

補助金の交付を国または地方公共団体から受ける学校法人は、「学校法人会計基準」に沿って会計処理を行い、各種計算書類を作成する必要があります。

学校法人会計基準では、「資金収支計算書」「活動区分資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」の各計算書類の作成が義務づけられています。

また学校法人は長く教育研究活動を行い、校地や校舎等を健全に、継続的に維持することを目的に「基本金」の制度が取り入れられています。これが学校法人会計の一番の特徴でもあります。学校法人会計基準第 29 条には、「学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資金を継続的に保持するために維持すべきものとして、その帰属収入のうちから組み入れた金額を基本金とする。」とあります。

学校法人 精華学園

財 産 目 録

令和5年3月31日

1. 資産総額	9,334,187,258 円
基本財産	5,860,233,229 円
運用財産	3,473,954,029 円
2. 負債総額	1,314,870,652 円
3. 正味資産	8,019,316,606 円

資 産

種 別	価 額
基本財産	5,860,233,229 円
土地	3,225,068,510 円
建物	2,001,391,261 円
構築物	253,624,181 円
教育研究用機器備品	124,060,780 円
管理用機器備品	16,788,308 円
図書	237,522,234 円
その他の基本財産	1,777,955 円

運用財産	3,473,954,029 円
現金預金	3,122,028,308 円
退職引当特定資産	18,277,689 円
奨学金引当特定資産	2,562,466 円
第2号基本金引当特定資産	200,000,000 円
生命保険積立金	28,656,523 円
有価証券	0 円
その他の運用資金	102,429,043 円

負 債

種 別	価 額
固定負債	988,980,189 円
長期借入金	750,000,000 円
退職給与引当金	238,980,189 円

流動負債	325,890,463 円
短期借入金	50,000,000 円
未払金	15,999,487 円
前受金	149,028,200 円
その他の流動負債	110,862,776 円

# 監査報告書

学校法人 精華学園

理事会 殿

令和5年5月17日

学校法人 精華学園

監事 藤本宏文



監事 久家秀材



私たち、学校法人精華学園監事は、私立学校法第37条第3項に基づき、同学園の令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）における計算書類（資金収支計算書・事業活動収支計算書・貸借対照表並びに附属明細表）及び、理事の業務執行状況について監査を行いました。

監査の結果、私達は上記の計算書類は、学校法人会計基準（文部省令第18号）に準拠しており、学校法人精華学園の令和5年3月31日現在の財政状態および同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めました。

また、理事の業務執行状況に関する不正の行為または法令もしくは寄付行為に違反する事実のないことを確認いたしました。

以上

**学校法人 精華学園**  
**令和4年度事業報告書**

**I. 法人の概要**

法人名	学校法人 精華学園			理事長名	吉田幸滋			
所在地	福岡県福岡市博多区南八幡町 2-12-1			電話番号	092-591-6331			
設立年月日	昭和26年3月7日							
目的	精華学園は仏教精神に立脚した教育理念のもとに、吉田マツが設立し、家庭及び社会人としての高度の教養と職業に直結する専門的知識・技能を授けつつ、新時代に即し国家社会に貢献しうる心身共に健全な女性の育成を目的とする法人である。							
設置する学校名	科別	課程	入学定員	入学者数	令和5年5月1日		令和5年5月1日	
					学生・生徒数	本務者数	収容定員	在籍者数
精華女子短期大学	幼児保育学科		150	77	300	160	28	21
	生活科学科		150	89	300	224		
	専攻科 保育福祉専攻		35	12	35	12		
精華女子高等学校		全日制	400	405	1200	1062	72	22
		看護専攻科	40		80	61		
役員等に関する事項		定数		現数		任期		
理事		5～8名		8名		4年		
監事		2～3名		2名		4年		
評議員		16～26名		20名		2年		

令和4年度	理事会開催回数	9回
	評議員会開催回数	2回

**II. 短期大学**

**【1】学 務**

**建学の精神**

1. 建学の精神と教育理念：建学の精神と教育理念に基づいて、事業計画を推進した。

**建学の精神「仏教精神に基づく人格教育」の具現化**

(1) 精華学園の建学の精神『仏教精神に基づく人格教育』及び精華女子短期大学の教育理念『誠・和・愛』に基づき、短期大学の機能と役割、教育の質の向上、学生の国際性の涵養等、社会が要請する教育の改革を推進して、社会において「自律実践・自立貢献」できる女性を育成する。

本学の建学精神と教育理念に基づき、短期大学の機能と役割、教育の質の向上、学生の国際性の涵養等、社会が要請する教育の改革を推進して、社会において「自律実践・自立貢献」できる女性を育成する方向で事業計画を推進した。

(2) 建学の精神「仏教精神に基づく人格教育」の具現化

① 仏教法話：必修講座として前期3回、後期3回の計6回実施した。

新型コロナウイルス感染防止のため、必要な場合動画配信で実施。前期・後期ともに対

面で実施した。

② 入学後のオリエンテーションで「建学の精神を考える集い」を実施した。

新型コロナウイルス感染防止のため、学長講話を動画配信した。

③ 教育課程内・外における「建学の精神」の周知と実行：実施した。

## 2. 学生募集

### (1) 入学生の確保

定員以上及び最大許容値以下の範囲で各学科・専攻の教育環境を考慮して目標値を定め、入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）に即した志願者を募り、入学生総数 350 名を確保する。

入学者総数 350 名の確保を目標としたが、入学生は 178 名に留まった。入学生数減少の主要因は、九州・山口の 18 歳人口の減少、高等教育の修学支援新制度（授業料の無償化）による 4 年制大学への進学者増、専門学校の PR や早期の生徒確保の戦略・戦術による専門学校人気の高さなどが考えられる。また、幼児保育学科及び食物栄養専攻においては、専門職である保育職や栄養士職の労働環境、生活総合ビジネス専攻においては、他短大や 4 年制大学の指定校枠の増加などが影響していると考えられる。

学生確保は急務であり、プロジェクトチームを立ち上げ、①高校訪問の見直し、②効果的な情報発信、③在校生及び高校生のアンケート（ニーズ調査）、④オープンキャンパスの内容充実、⑤在校生の満足度上昇、⑥カリキュラム見直し等を速やかに実施し、効果的な広報活動を行う。

### (2) 広報活動の強化

#### ① 高校訪問体制・方法の見直しと高校訪問の徹底

新型コロナウイルスへの感染状況に応じて可能な範囲で実施した。

#### ② オープンキャンパスの企画の充実と参加者増に向けての検討

効果的なオープンキャンパスを実施し、入学者増を目指す。4 回のオープンキャンパスを実施したが、参加者数は昨年を若干下回った。新たに新 3 年生向けのオープンキャンパスを 3 月 21 日に実施した。

#### ③ インターネット・ウェブ及び印刷物等の有効活用（特にスマートフォン世代を意識化して）

高校生が魅力を感じる情報のホームページ公開。動画アップ回数は、幼児保育学科 5 回（前年度 13 回）、食物栄養専攻 3 回（前年度 13 回）、生活総合ビジネス専攻 3 回（前年度 16 回）、専攻科 8 回（前年度 3 回）と専攻科以外は減少しており、動画コンテンツの質、量の充実が課題である。

ホームページ訪問者数は、複数回の訪問者が 1 回にカウントされるようになり、昨年の実績を下回った。高校生の情報収集は、ホームページから SNS に移行しつつあり、SNS を活用した情報発信を検討する。

#### ④ 高短連携を導入した広報活動の積極的推進

高校生と短大生の交流会を継続して実施し、併設校からの入学生確保に努める。高校側から参加するコースが 3 から 4 に増加し、昨年と同じ方式で 11 月 11 日に実施した。

#### ⑤ 専攻科学生確保のための広報活動の強化

学内および他の短大からの入学者の確保に努める：学校訪問等を実施したものの、他大学からの入学はなかった。

#### ⑥ 改正奨学生制度を活用した広報活動の展開：実施した。

### (3) 高大接続改革の推進

## ①併設校との連携強化と接続教育

新型コロナウイルスへの感染状況に応じて可能な範囲で実施する。

ア. 高短連携部会の継続・充実：5月20日、3月16日に実施した。

イ. 各学科・専攻、コース間の連携、導入教育・接続教育の充実

2年生ドリカムコース進路研究(4/30)、3年担任向け大学案内(5/13)、推薦一期入学試験案内・面接指導(10/3)、短大生との交流会(11/11)、1年生向け大学案内(2/4)、導入教育(高校で1/30、2/13、短大で2/17)、新3年向けOC(3/4)を実施した。

ウ. オープンキャンパス、学園祭等における学生-生徒間交流の充実

オンラインを含む学生-生徒間交流の充実に努める。対面およびオンラインでの交流を一部実施し、好評であった。

エ. 高校生のためのセミナー実施：新型コロナウイルス感染予防のため中止した。

オ. 高短の合同研修会の実施：12月2日にグループワーク形式で実施した。

カ. 高短の吹奏楽部の連携：新型コロナウイルス感染予防のため、実施できなかった。

## ②一般校との連携強化と接続教育

ア. 入学者受け入れ方針に基づいた入学者選抜の実施(学力の3要素をふまえた多面的・総合的な入試選抜)、効果的な入学者選抜の方式について検討した。

イ. 入学者の追跡調査を実施した。

ウ. 高大接続教育の連携強化に向けて検討した。

## 【2】教育活動

### 1. 大学教育の質向上

(1) 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)に基づく教育改革(三つの方針の一体的策定と具体化の推進)を実施した。

(2) キャリア教育・職業教育の充実・強化

学力の三要素(知識・技能の取得、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働)をふまえたキャリア教育、職業教育を推進した。

(3) 学生の学習受容性(学習目標、学習意欲、基礎学力、学習習慣等)を把握した。

(4) 二極化対策(初年時教育、導入教育、補習授業等、付加活動、先行教育、付加資格等)の実施。入学前課題の評価を学修成果のひとつとして捉え、入学後の学習指導に活用した。

(5) 能動的学習(グループ学習、フィールド学習、PBL等)を実施し、Seika Learning Commons(特に生活総合ビジネス専攻におけるSeika仕様iPad等)を有効活用した。

(6) 課外活動(学友会、クラブ活動、行事、ボランティア、社会活動、地域貢献、OC等)の有効活用

新型コロナウイルスへの感染状況に応じて可能な範囲で実施する。課外活動は参加者の安全対策を記載した申請書を提出させ、実施を許可しているが、実施例は少なかった。

(7) キャリアプランニングシート、履修カルテ、卒業生調査、学修時間の調査等を活用した学修成果の把握および可視化を推進した。

### 2. 教育の質の向上に関するPDCAサイクルの確立

シラバス記載内容の適正化、学修時間・学習行動の把握、授業評価の実施(考察の提出を含む)、FDの実施、地域企業との連携(協定書に基づく)によるアクティブラーニングの展開等を実施した。

### 3. 編入学支援教育の充実・強化

ガイダンスの実施、試験対策、小論文、面接指導等：食物栄養専攻3名（長崎国際大学、尚絅大学、岡山学院大学）、生活総合ビジネス専攻2名（筑紫女学園大学、安田女子大学）の計5名が進学した。

### 4. 専門教育充実のための各種講座の実施

新型コロナウイルスへの感染状況に応じて可能な範囲で実施する。

- ①「栄養士のための化学入門」等の補習教育を実施（食物栄養専攻）：4/12～5/31に7日間実施した。
- ② 栄養士実力認定試験対策講座の実施（食物栄養専攻）：4月～12月に実施した。  
試験結果：A判定45%（前年度16%）
- ③ フードスペシャリスト資格認定試験対策講座の実施（食物栄養専攻）：4月～12月に実施した。  
試験結果：合格率78%（前年度59%）
- ④ 登録販売者対策講座の実施（食物栄養専攻、生活総合ビジネス専攻合同）：4月～11月に実施した。試験結果：食物栄養専攻から2名合格（前年度1名）
- ⑤ ビジネススキルアップ講座等の実施（生活総合ビジネス専攻）  
日商PC（文書作成）検定／ビジネス文書技能検定（11/26実施、2級1名、3級13名合格）  
／秘書技能検定（6/19実施、2級2名、3級2名合格）／旅程管理主任者研修（受験希望者なし）  
／サービス接客検定（2級6名、3級57名合格）／日商プログラミング検定／医事管理士・医療管理秘書士認定試験（医事管理士27名、医療管理秘書士4名合格・満点賞1名）
- ⑥「セラピューティック・ケア介護セラピスト」「インファント・セラピスト」を専攻科付加資格とするため所定の受講科目を実施（専攻科）した。
- ⑦ 介護福祉士国家試験対策講座の実施（専攻科）：4月～1月に実施した。（全員合格）。
- ⑧ 住環境コーディネータ試験対策講座の実施（専攻科）：10月～12月に実施した。（1名合格）。

## 【3】 学生支援

### 1. 就職支援活動の強化

#### (1) キャリア・職業意識の高揚と進路ガイダンスの実施

新型コロナウイルス感染予防のため、学外オリエンテーションは中止した。就職説明会等の多くが中止となったが、多くの企業が本学で説明会を実施した。また、就職指導を充実させ、内定者の増加に努めた。

#### (2) 地域企業人の協定によるキャリア教育の実施（西ロータリークラブ等）

新型コロナウイルスへの感染状況に応じて可能な範囲で実施する。11/1にホテルオークラから講師を招いて実施した。

#### (3) 学生の就業力育成：現場での実習およびインターンシップを実施した。

#### (4) 教員・職員連携による学生就職活動の促進

高校生が魅力を感じる新規就職先の開拓および成果の広報を推進した。新型コロナウイルス感染予防のため企業説明会等の中止が相次ぐ中、教職員の連携により活発な就職支援活動を行った。学生支援課は、積極的に求人依頼と求人開拓を行い、学生に情報提供を行った。また、各学科・専攻長およびアドバイザーと連携を取り、学生の就職活動を教職員で協働して個別支援した。さらに、専門職以外にも就職先を拡大するための広報活動を開始した。その結果、本科、専攻科ともに就職率100%を達成した。また、卒業者に対する進路決定者についても、本科95.2%（前年度91.0%）、専攻科92.9%（前年度85.7%）と

なっており、前年度を上回る実績であった。

(2023.5.1現在)

	学科・専攻	卒業者	進学者	就職者	その他	就職希望者	就職率	進路決定率
学科 (課程)	幼児保育学科	119名	12名	102名	5名	102名	100.0%	95.8%
	食物栄養専攻	57名	3名	53名	1名	53名	100.0%	98.2%
	生活総合ビジネス	72名	2名	65名	5名	65名	100.0%	93.1%
	小計	248名	17名	220名	11名	220名	100.0%	95.2%
専攻科：保育福祉専攻		14名	1名	12名	1名	12名	100.0%	92.9%
合計		262名	18名	232名	12名	232名	100.0%	95.4%

(その他は、家事、アルバイト、パート勤務等)

## 2. 学生生活充実の支援

### (1) 教学業務のICT化推進

大学間連携共同教育によるIRネットワークの有効活用の検討(GP終了後の義務)。  
2020年度に実施したICT化の拡大・高度化を進めた。

### (2) 図書館の充実と有効活用：図書の実用と利用の推進を実施した。学生1人当りの入館回数、貸出冊数ともに前年度を上回った。

### (3) 課外活動の支援

吹奏楽部等の活動を支援し、併設校との協力関係を深めるとともに、一般校からの入学者増に結び付ける。新型コロナウイルス感染予防に配慮しながら練習し、学園祭(11/12)やランチタイム(7/20、10/26、12/21)にコンサートを行った。

### (4) 留学生支援：新型コロナウイルス感染予防のため、留学生の受け入れを中止した。

### (5) 教育環境の整備

基幹サーバ更新、Wi-Fi設備増設、印刷室設置印刷機更新、吹奏楽部楽器購入。

### (6) 中途退学者の防止と対策の検討および取り組みの強化

教育現場における早期相談体制の確立。実施中。今年度の退学者数は23名(前年度21名)で、2名増加した。全学的な学生対応の見直しおよび早期発見による退学防止と対策が課題である。

### (7) 学生寮の活用

より快適な寮生活の改善に努める。精華寮生へのアンケートを実施し、寮生の要望を把握した。

## 3. 学生環境調査の活用と学生満足度の向上

Wi-Fi設備増設、吹奏楽部用楽器購入、第一・第二精華寮洗面台用電気温水器設置、第二精華寮風呂用ガス給湯器入替を行った。

## 4. 卒業生・修了生支援と連携

### (1) リカレント教育、里帰りの会、リフレッシュ研修、卒業生相談等の実施

新型コロナウイルスへの感染状況に応じて可能な範囲で実施する。オンライン等の安全な支援法を確立する。

里帰りの会は、幼児保育学科で6/18に実施(対面2名、オンライン2名)、食物栄養専攻では11/19に実施(対面6名)。生活総合ビジネス専攻では学園祭が学内限定のため同期会を中止。専攻科ではリフレッシュ研修を3/14に実施した。(オンライン2名)。

### (2) 同窓会との連携の強化を実施した。



#### 【4】 FD・SD活動の充実・強化および自己点検評価

(1) 教職員研修会の実施 (FD・SDの実施方針・計画の全学的策定と取り組み)

新型コロナウイルスへの感染状況に応じ、動画配信を併用して安全な形で実施する。

下記の内容で実施した。

実施日	実施項目	内容	講師等
R4. 7. 15	教職員研修会	R3 年度グッドティーチング賞受賞科目「障害児保育」講義。理事長と学長が出席、教職員へ動画配信。	志方亮介講師
R4 年 9 月	教職員研修会	「消費者教育について」。9/5-30 に福岡県消費生活センター作成の動画を配信。	
R4. 9. 20	理事長講話	「学校会計の見方、財務、短大をとりまく環境について」	吉田理事長
R4 年 9 月	学長講話	「強い短期大学を目指して」の原稿を配信。	山田学長
R4 年 9 月	危機管理講習会	「校内での安全対策 AED など」の動画配信。	(株) にしけい
R4. 12. 13	教職員研修会	R2 年度グッドティーチング賞受賞科目「子どもと環境」講義。理事長と学長が出席、教職員へ動画配信。	古林ゆり講師
R4. 12. 13	教職員研修会	シラバス作成について	武部幸世准教授
R5. 2. 8	仏教法話	「仏教法話」	岡本明了住職
R5. 2. 8	教職員研修会	R3 年度学長教育論文賞研究報告「施設実習における現状と課題Ⅱ」	志方亮介講師
R5. 2. 8	教職員研修会	「電子教科書について」	丸善雄松堂株式会社
R5 年 3 月	教職員研修会	「教職員研修会の1年間の振り返り」を動画配信。	

(2) 学生による授業評価の実施とグッドティーチング賞の授与

前年度の授業評価に基づいてグッドティーチング賞授賞者を朝木教授に決定し、12月の教授会で表彰した。

(3) 公開授業の実施

新型コロナウイルスへの感染状況に応じ、動画配信を併用して安全な形で実施する。7月15日に「障害児保育」、12月13日に「子どもと環境」を実施した。

(4) 自啓録による教員の自己点検評価を実施した。

(5) 外部評価委員会の実施 (3 ポリシーをふまえた、取り組みの適切性の確保に向けて)

新型コロナウイルスへの感染状況に応じて安全な形で実施する。新評価委員の委嘱を終了、2月21日に新評価委員(4名)を交えて委員会を実施した。

(6) 令和3年度自己点検評価報告書の作成と公開を実施した。

#### 【5】 教員の研究活動の充実・強化

(1) 外部資金獲得のための体制づくり(科研費等)を実施した。

(2) 教育研究論文投稿の奨励と「学長教育研究論文賞」の授与:応募者がいなかった。

(3) 研修日を有効利用し、教育研究活動を推進した。

## 【6】 地域連携・社会貢献活動(エクステンションセンター)

### 1. 正課外教育および大学開放教育

新型コロナウイルスへの感染状況に応じて可能な範囲で実施する。

- (1) 各種講座等の実施（社会人対象及び卒業後教育講座等を含む）
  - ① 保育リカレント講座の実施：6/18の里帰りの会で実施した。
  - ② 保育・子育て公開講座の実施：12/16に柳瀬保育園で実施、23名参加。
  - ③「運動あそび広場」(幼児～小学校低学年対象):子どもスポーツ教室を実施した(5/8、8/28、9/24)。
  - ④ 管理栄養士国家試験対策講座（通信講座）の実施：6月～2月に実施した。7名中1名は卒業生。
  - ⑤ クッキングセミナーの実施：12/3に実施した。8名参加。
  - ⑥ 「精華パティシエ学級」の実施：5/21実施した。8名参加。
  - ⑦ 「親子食育講座」（小学生の親子対象）の実施：8/4実施した。13名参加。
  - ⑧ 「あなたもお料理1年生」の実施：希望者が少なく中止した。
  - ⑨ ビジネススキルアップ講座：4月～10月に実施した。受講者数のべ117名。
  - ⑩ 「せいかよかよか倶楽部」の実施：新型コロナウイルス感染予防のため中止した。
  - ⑪ 高校生のための秘書検定対策講座の実施：新型コロナウイルス感染予防のため中止した。
  - ⑫ キッズプログラミング教室の実施：8/6に実施した。参加者9名。
- (2) 「福岡市南区大学連絡会議構成校と福岡市南区との連携に関する協定」による事業への参加  
南区子ども大学として親子食育講座とキッズプログラミング教室を開催。8/7は、幼児保育学科（23名参加）と専攻科（14名参加）が実施した。
- (3) 「春日市教育委員会の教育交流協定」による事業の充実：新型コロナウイルス感染予防のため中止した。
- (4) 地域における子育て支援事業への参加：12/14に実施した。（日の出町公民館、宮竹公民館、太陽保育園）。
- (5) 「認知症キャラバンメイト」の展開：7/12-13に実施した。
- (6) 福岡県地域医療介護総合確保基金を充てて実施する事業への参加（介護の裾野を拓げる事業、学生が作成する介護の仕事理解促進事業）：10/8実施「ふくおかカイゴつながるプロジェクト2022」に参加、「介護の魅力」11/5（北九州市）、11/6（筑後市）、11/13（飯塚市）、11/26（福岡市）、12/17、1/11（筑前町）、1/28（福岡市）に実施、「介護講座」11/26（福岡市）、12/10、12/16（筑前町）に実施した。
- (7) 各学科・専攻、専攻科で協働して取り組む地域連携、社会貢献活動の検討（幼児保育学科と食物栄養専攻での協働活動実施等）：新型コロナウイルス感染予防のため中止した。
- (8) 那珂川北中学校「自作弁当の日における食育に関する講演」への参加：11/28に実施した。

### 2. 音楽講座

弦楽器、管楽器等の講座を新型コロナウイルスへの感染状況に応じて可能な範囲で実施した。

### 3. コミュニティオーケストラ

新型コロナウイルスへの感染状況に応じて可能な範囲で実施する。

- ① コミュニティオーケストラ第19回定期演奏会（アクロス福岡シンフォニーホール）  
12月18日に開催し、583名が来場した。
- ② 第11回キャンパスコンサート（精華学園記念館2Fカフェテリア）

2020・21年度に延期したもの。再延期の予定：新型コロナウイルス感染予防のため延期した。

### 【7】国際交流（グローバル化への対応）

新型コロナウイルスへの感染状況に応じて可能な範囲で実施する。新型コロナウイルス感染拡大のため、ほとんどすべての事業が中止となった。

- (1) 崇義女子大学校との交流活動
  - ① 日本語実務教育の委託講義：中止した。
  - ② 交換協定短期留学生受入：中止した。
- (2) 中国厦門理工学院との交流活動
  - ① 交換留学生受入れ：中止した。
  - ② 学生派遣体制の整備の一環として交流研修を検討した。
- (3) 慶南情報大学校との交流活動
  - ① 交換留学生受入れ：中止した。
  - ② 本学学生の交換留学生の派遣：中止した。
  - ③ 本学学生の提携校先の専門職留学体験プログラムの検討：中止した。
- (4) 留学生の為の日本語講座の実施：中止した。

### 【8】大学間連携および産学官連携

1. 私立大学等改革総合支援事業タイプ5「プラットフォーム形成」：九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォームの取り組み（文部科学省）の継続  
長崎、佐賀、福岡の17大学【長崎10大学（国公立：2、私立4大：6、私立短大2）、佐賀5大学（国立：1、私立4大：1、私立短大：3）、福岡2大学（私立短大：2）】と長崎県、佐賀県、佐世保市、長崎経済同友会、佐賀商工会議所連合会の産学官での取り組み：最終年度を実施して終了した。
2. 短期大学コンソーシアム九州における取り組み  
福岡、佐賀、長崎の七短大の連携による事業「短期大学士課程の職業・キャリア教育と共同教学 IR ネットワーク」（文部科学省平成24～28年度大学改革推進プログラム）の継続：実施中、3月21日に20周年事業を実施した。

### 【9】大学の情報公開及び大学の広報活動

- (1) 適切な情報公開（大学ポートレート）：実施した。
- (2) 教育活動の広報：実施した。
- (3) マスメディアの積極活用：実施した。
- (4) ホームページ更新の迅速化および内容の充実：実施した。  
ホームページアップ回数は、幼児保育学科33回（前年度30回）、食物栄養専攻35回（前年度25回）、生活総合ビジネス専攻20回（前年度27回）、専攻科6回（前年度3回）となり、各学科専攻で学校行事や授業内容などの情報発信に努めた。
- (5) 日本私立短期大学協会短大クエスチョンの活用：実施した。

### 【10】円滑な大学運営の実施

- (1) コンプライアンス（法令遵守）の維持向上：実施した。
- (2) 組織運営機能とガバナンスの強化：実施した。

(3) 快適で安全な教育研究環境の整備の推進

健康診断（6/4 に実施した）、メンタルヘルス体制、防災訓練（6/15 に動画配信で実施した）等。

(4) 健全な財政の維持・推進

- ① SWOT 分析を実施した。
- ② 一般補助金・特別補助金・外部資金獲得の工夫  
各種特別補助事業等への申請を検討した。  
私立大学等改革総合支援事業は申請した。

**【11】 中長期計画の着実な実施**

本事業計画は、精華女子短期大学第 2 次中長期計画(2021 年度～2025 年度)に基づき策定し、年間 2 回の評価を実施する。本報告は令和 4 年度 2 回目の評価である。

### Ⅲ. 高等学校

#### 1. 学務

(1) 令和5年度生徒募集について (405名)

(2) 看護科・看護専攻科の取り組みについて

コロナ禍の中、看護科、看護専攻科ともに病院実習が十分に実施できなかつたため、実習が中止となった病院については校内実習での代替、また、他の病院への振り替え等を行い実施した。受け入れていただいた病院については、密を避けるため実施期間を前半、後半に分けて実施する等、状況に応じて工夫して行った。

令和4年度の准看護師試験は令和5年2月14日(火)に、看護師国家試験は令和5年2月12日(日)に行われ、受験した准看護師23名、看護師24名の全員が合格を果たした。

(3) 普通コース「進路研究」について

普通コースの科目「進路研究」では、生徒の希望に応じて「進路研究」の他に「情報ビジネス」や「器楽演奏法」の講座の選択が可能となるような教育課程を実施している。令和4年度の選択状況は次のとおりであった。なお、令和5年度からは新たに「ダンス表現講座」を設けている。この講座では、ダンスをとおして自己を表現する力を養い、さまざまな場面で活かせる力を身につけさせることを目的としている。

1 学年…「進路研究」82名、「情報ビジネス」19名、「器楽演奏法」13名

2 学年…「進路研究」71名、「情報ビジネス」26名、「器楽演奏法」10名

3 学年…「進路研究」71名、「情報ビジネス」21名、「器楽演奏法」22名

(4) 制服の変更について

制服の変更には、新制服検討委員会を立ち上げ、デザインの検討を行った。

検討委員会では本校生徒会や中学生、中学生の保護者の意見も参考にしながら新制服を決定し、9月17日(土)に電気ビル「みらいホール」において新制服発表会を行った。

標準服については、紺のブレザーに紫色のシャツ、そしてボトムスはスカート、スラックス、キュロットの3種類から選択制とした。また、紺のチェックのリボンかネクタイを選べるようにしている。標準服以外にもオプションとして、様々なアイテムを揃えている。令和5年度入学生から学年進行で新制服に移行する。

#### 2. 教育環境の整備等

① 精華学園記念体育館の玄関庇改修工事

体育館玄関の庇が腐食等により破損し、破損したものが落下していた。また、破損した箇所から雨漏りも発生していたが6月に改修工事を実施し、状況は改良した。

② 別館吹奏楽部楽器倉庫の棚設置工事

別館1階に吹奏楽部の楽器倉庫を2部屋設置している。しかし、倉庫内には楽器収納の棚が設置されていないため、楽器を直接床に置く等していた。このような状況は楽器の保存にも悪影響を及ぼしかねないため、5月21日に棚の設置工事を行い、楽器の適切な収納と床スペースの確保ができるようになった。

③ 校内各階のWi-Fiアクセスポイントの設置工事

今後、ZOOM等を活用するオンライン授業を実施する頻度の増加が考えられる。このことを想定して、校内の各階にWi-Fiアクセスポイントを設置し、校内ネットワーク環境を充実させるため4月に設置工事を行い、各階各教室におけるZOOMの活用がスムーズに行えるようになった。

④ 東館への渡り廊下新設のための土地購入について

東館新設以来の念願である渡り廊下の新設については様々な条件が重なって実現できていない。その条件の一つが、土地の確保である。予定地には住宅があり、すぐの実現は不可能かもしれないが、予算としては計上した。

⑤ 災害時用の備蓄倉庫内の備蓄物資の計画的購入

地域貢献活動の一環として設置した災害時用の備蓄倉庫の充実を図るために、災害用備品を追加購入した。

### 3. 前年度から継続した事業や新規に導入した事業等について

以下の事業等について、コロナ禍の状況を見ながら、可能な範囲で実施することとしたい。

- ①挨拶日本一運動  
⇒生徒会役員等が門立ちを行い実施した。
- ②朝10分間読書運動・皆勤運動  
⇒朝の10分間はコロナ感染症対策として生徒の健康調査の時間に充てた。あわせて自学自習も行った。皆勤運動は実施した。
- ③修学旅行(東京)、ホームステイ(私立高校生徒アジア派遣研修事業に参加した)等  
⇒修学旅行は9月に実施予定であったが、コロナ禍のため令和5年1月に延期し実施した。私立高校生徒アジア派遣事業は、今年度タイ王国との生徒相互交流事業オンライン国際交流プログラムとなった。8月5日(金)、8日(月)、9日(火)、10日(水)の4日間福岡サンパレスにて行われた。本校からも2年生1名、1年生1名が参加した。また、宗像市グローバルアリーナで開催されたグローバル人材育成キャンプに2年生が1名参加した。
- ④ラブアースクリーン(1年生による地域清掃)  
⇒6月3日(金)1年生全クラスで実施した。
- ⑤授業評価アンケート実施(年2回、7月・12月)とグッドティーチャー賞授与(これは、私学振興大綱の「提言2」の「評価システムの導入」の取り組みである。)  
⇒9月、12月に実施した。
- ⑥吹奏楽部サマーコンサート  
⇒本年度は実施しなかった。
- ⑦報恩の日法要(学校創設者ご夫妻の法要)(7月11日(土))  
⇒予定通り行った。
- ⑧体育祭(10月5日(水))  
⇒福岡市総合体育館にて予定通り実施した。保護者・家族の観覧は3年生各家庭1名のみとした。ズーム配信もおこなった。
- ⑨第7回ダンス部公演(日程は未定)  
⇒令和5年1月7日(土)、「福岡南市民センター」において実施した。午前、午後の2回公演を行い、あわせて800名以上の皆様にダンス部の演技を楽しんでいただいた。
- ⑩第39回吹奏楽部定期演奏会(令和5年2月18日(土)、19日(日):福岡サンパレス)  
⇒2日間4公演を実施した。あわせて約5,000人の皆様に吹奏楽部の演奏、演技を楽しんでいただいた。
- ⑪ご法話(妙泉寺・木村真昭先生、西宗寺・岡本明了先生、各学年月1回)  
⇒各学年7回のご法話をいただいた。
- ⑫奨学生募集(育英・特技・看護・コース・離島・部活動奨励)  
⇒それぞれの奨学生種に応じた生徒の募集を行った。
- ⑬保育福祉コースの保育園実習(これは私学振興大綱「提言4」の「キャリア教育を充実させる」の取り組みである。)  
⇒八女市の幼稚園にて7～11月にかけて、各学年1回実習を行った。
- ⑭製菓コースの職場実習(3年生、夏休み中に1人3日間予定)  
⇒中止した。
- ⑮普通(ドリカム)コースでの進路研究講座選択者による大学・短大・専門学校・企業等の訪問  
⇒予定通り実施した。
- ⑯毎月8の日に博多駅清掃活動(生徒会・ボランティア部)  
⇒生徒会、ボランティア部の生徒を中心として延べ230名の生徒が参加した。
- ⑰各科コースに応じた検定資格等取得の奨励  
⇒全ての生徒を対象とした英語検定(2級:13名 準2級:20名 3級;47名)、漢字検定(2級:4名 準2級:17名 3級:48名)を始めとし、各コースではコースに応じた資格を取得した。
- ⑱3年就職希望生による朝の清掃活動(学校周辺)  
⇒予定通り実施した。
- ⑲看護科  
実 習

1年生…夏休み中に病院、施設等で5日間  
2年生…11月に病院で3週間  
3年生…5月下旬から6月中旬にかけて3週間、さらに9月下旬から10月中旬にかけて3週間  
⇒実習病院等の受け入れ状況に応じて、適宜工夫して実施した。

#### 戴帽式

2年生…8月6日(土)  
⇒予定通り実施した。

#### ⑳看護専攻科

##### 病院実習

4年生…12月2日(金)～12月19日(月)：12日間  
5年生…4月26日(月)～11月9日(火)：約6ヶ月間  
⇒実習病院の受け入れ状況等に応じて、適宜工夫して実施した。

##### 病理ミュージアム見学

4年生の9月28日(水)、10月5日(水)に九大にて実施  
⇒予定どおり実施した。

##### 個別指導

⇒11月から実施した。

#### ㉑授業研究の充実(研究授業の実施等)

⇒新規採用教員に対し実施した。

#### ㉒令和4年度入学生に対してiPad導入

⇒授業、課題の提出、連絡等に活用した。

#### ㉓令和4年度全学年において、「総合的探究」の時間に問題解決型学習を導入

⇒予定通り実施した。

#### ㉔特別進学コース1・2年生に対して、ベネッセグループの英会話教室による英語課外授業を導入する予定であったが中止した。

#### ㉕特別進学コース全学年に対してiPadを導入

⇒授業はもちろん、課題の提出や連絡等に活用した。

#### ㉖特別進学コース1・2年生希望者に対してPBL(問題解決型学習)の実施

⇒予定通り実施した。

#### ㉗令和2年度入学生より、精華学園育成会(精華サポーターズクラブ)の支援による指定国立大学への大学合格者に対して授業料の援助

⇒九州大学合格者1名に対して4年間の授業料援助をいただくこととなった。

### 4. 進路実績(合格採用実績)

(1) 進 学：国公立大学7名、私立大学94名(延べ人数)、短期大学105名、専門学校71名(延べ人数)、  
専攻科35名

(2) 就 職：希望者数26名 決定者数26名 率100%

### 5. 精華女子高等学校中長期計画について

第2次中長期計画の策定三年目である。計画の具現化に注意を払いながら、一層充実した学校経営に努めた。